

# 水を守り届けるために、町が取り組む3つのこと

## 1 / 毎日欠かさない厳しい水質検査

上水道では、水道法で定める51の検査項目をクリアし、人が生涯にわたり飲み続けても影響がないと認められた水だけが各家庭に飲料水として届けられています。町内15か所で毎日残留塩素の測定も行っており、蛇口から出てくる水はすべてそのまま飲むことができる水質が常に保たれています。



↑水道管末の水に検査薬を混ぜて塩素に色をつけることで、残留塩素を測定。

## 2 / 合併浄化槽の設置に補助金

生活する上で出てしまう油や汚れなどを含む生活排水。そのまま流すと水路や側溝を通り川を汚染するほか、浄化槽への負担にもつながります。また町内の約10%の家庭では、トイレ排水のみ浄化を行う単独浄化槽を使用しています。町では全ての排水の浄化を行う合併浄化槽の設置に補助金を交付。町と自宅周辺の水環境を守るために、ぜひ制度をご利用ください。

問 役場住民課 環境衛生係 ☎ 28-7761

補助金額 → 人槽(大きさ)は建物の面積などで決まります。

人槽区分	限度額	対象基準
5人槽	332,000円	130㎡(約40坪)未満
6~7人槽	414,000円	130㎡(約40坪)以上
8~10人槽	548,000円	2世帯住宅(店舗型住宅含む)
11~20人槽	939,000円	共同住宅(賃貸アパート含む)

※交付には条件がありますので、詳しくはお問い合わせください。

## 3 / 計画運用による水道事業の維持

これまで、水道料金の徴収強化や計画的な運用により、今日まで値上げせず運営が維持できてきました。しかし設備の老朽化や漏水工事の増加、人口減による減収から、運営が厳しくなることが予想されています。今後も利用者負担の少ない運営を目指しますので、水道事業へのご理解とご協力をお願いします。



## 福智町内の主な3つの水源

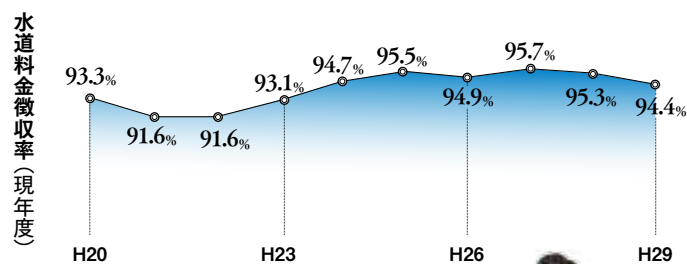


町内の大きな自然水源は主に3つ。「彦山川」は上河原浄水場、「白鬚川」は伊方浄水場、「奥池」は奥池浄水場で浄水され、私たちの家庭に配水されます。

### 企業とともに水源を守る福智発の植樹活動



奥池のほとりに、TOTO株式会社と福智町が協力して植樹を行ってきたどんぐりの森があります。福智町が事業初のモデルとなり平成18年に始まったこの活動。根を張る範囲が広く土を掴む力が強いどんぐりの木を植えることで、保水力の高い、強い地盤を作り上げています。この活動をはじめ、町の水源地は多くの人と活動に支えられ、大切に守られています。



水道事業を支える水道料金。水質を保った安心・安全な水の供給とわたしたちの暮らしを守るために、納期限までの正しい納付をお願いします。

福智町役場水道課 高橋 舜弥



## Pick Up Information 専用水道

### 町内で唯一、地域で動かす浄水場

上水道の管理は基本的に町が行っていますが、一部では地域で浄水場を運営する場合があります。維持管理には多くの費用や設備・人員が必要なため、町内では古門地区の専用水道のみ運営されています。



東中古門専用水道浄水場

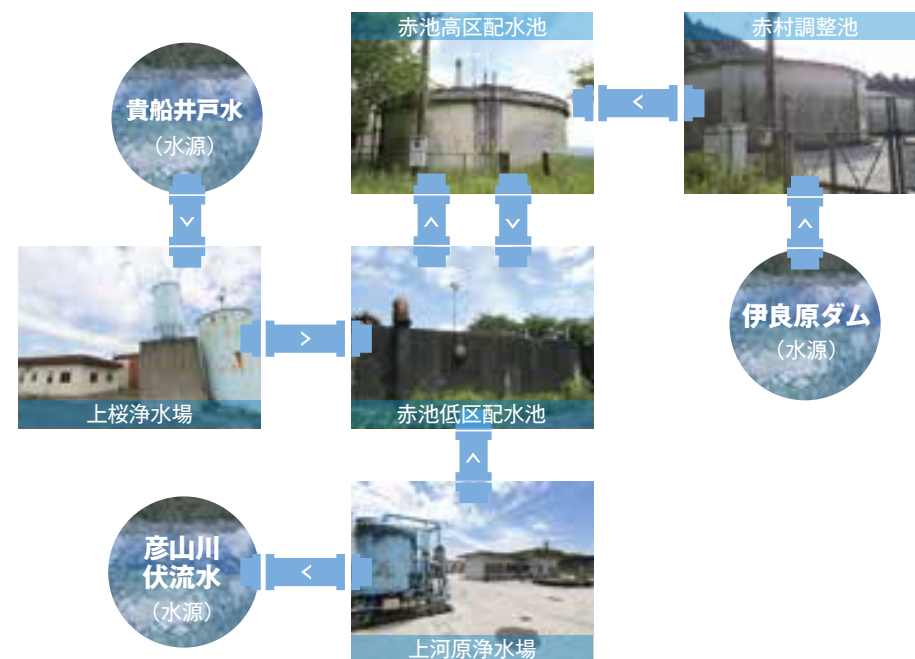


福智町役場水道課 世良 翔平

4月からダムの水が届くようになった方城地区。川を主水源としていた頃と比べ、大きく水質が向上しました。

低所に水源が多い赤池・市場地区と伊方・弁城地区は、ポンプアップによる高所の配水池への送水が多いことが特徴です。また高所と低所の配水池をつなぐことで、ダムの水と自己水源の水を混合し、各家庭へ配水しています。

方城地区にもダムの水を

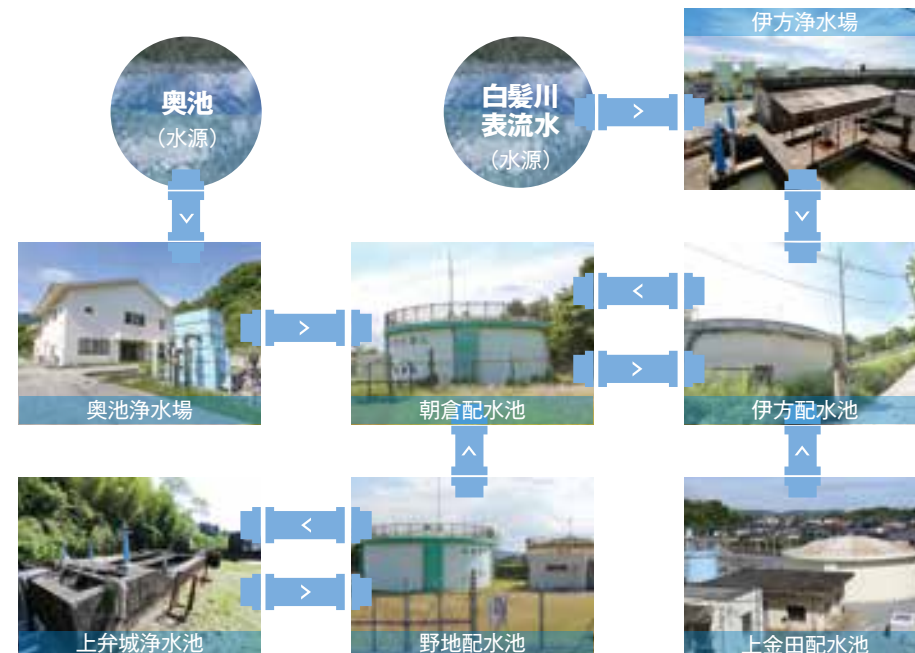


### DETA

給水人口 約 7,000人  
平均配水量 約 2,500 t/日

低区に水源をもつ赤池・市場地区は、ポンプアップを活用し、地域への配水を行ってきました。またダムの水が届く高区配水池と、浄水場で作られる水が届く低区配水池を連結して送水することで、ダムの水と地元水源の水を混ぜて配水を行っています。

「赤池・市場地区」



### DETA

給水人口 約 6,200人  
平均配水量 約 2,900 t/日

上金田配水池と新たに伊方配水池へとつながる送水管を新設して、伊良原ダムの水を送水。各配水池が連結され相互に送水することで、ダムの水を全域に送ります。また町内で唯一、浄水場と配水池の機能を併せ持つ上弁城浄水池があるなど、特色ある配水を行っています。

「伊方・弁城地区」